

学校の運営に関する計画 (最終評価)

令和3年3月

大阪市立茨田西小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和元年度に学校で認知したいじめについては100%解消している。
- 令和元年度の小学校学力経年調査で「学校のきまり・規則を守っている」と肯定的に回答している児童は95%、児童アンケートでは93.1%で、さらにきまりを守る児童の割合を高めていきたい。
- 令和元年度の小学校学力経年調査で「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している児童は84%、児童アンケートでは89%であった。また、「自分の命も、人の命も大切にしている」と肯定的に回答している児童は98.7%で、自尊感情や他の生命を尊重する心は育ってきている。
- 令和元年度の小学校学力経年調査における正答率70%以下の児童は、全体で5.9%であった。さらに基礎的・基本的学力の定着・向上を目指す。
- 令和元年度の児童アンケートで「宿題以外に家で勉強をしている」と肯定的に回答している児童は83%で自主学習習慣が身につけてきている。
- 令和元年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答している児童は75%で目標を上回った。継続して「主体的・対話的で深い学び」を推進に取り組んでいく。
- 令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点は女子・男子とも大阪市平均を上回った。継続して体力・運動能力の向上に取り組んでいく。
- 令和元年度までの食育の取組により、朝食を食べる児童の割合は年々上昇している。給食を残さず食べることに重点を置き、さらに食育を推進していく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29～令和2年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和2年度末の児童アンケートにおける「自分の命も、人の命も大切にしていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させる。
- 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より3ポイント減少させる。
- 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成29年度より3ポイント増加させる。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成28年度より増加させる。
- 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における、体力合計点を男女ともに全国平均以上にする。
- 令和2年度末の児童アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「毎日食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合を95%以上にする。
- 令和2年度末の児童アンケートにおける「給食を残さず食べていますか」の項目について、「残さず食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を86%以上にする。
- 年度末の児童アンケートにおける「自分の命も、人の命も大切にしていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を91%以上にする。
- 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を86%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 前年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において課題であった、運動を持続させる力の平均の記録を前年度より2ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「宿題以外に家で学校の勉強をしていますか」の項目について「している（どちらかといえば、している）」と答える児童の割合を81%以上にする。
- 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を76%以上にする。
- 20メートルシャトルランを2学期末までに実施し、平均記録を前年度より2ポイント向上させる。
- 年度末の児童アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「毎日食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合を93%以上にする。
- 年度末の児童アンケートにおける「給食を残さず食べていますか」の項目について、「残さず食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合を91%以上にする。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 認知したいじめについては、各担任・学年などで迅速に取り組み **100%解消**した。
- 児童アンケートで、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童が **93%**で目標を上回った。
- 暴力行為を複数回行う加害児童数は **0人**であった。（全年度0人）
- 前年度と比較し、新たに不登校になる児童は2名で、**割合は減少**した。

学校園の年度目標

- 児童アンケートの下記の項目で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合は、以下の結果であった。
 - ・「自分にはよいところがある（自尊感情）」が児童によるアンケートでは **90%**と目標を上回り、**目標に達した**。
 - ・「学校に行くのは楽しい。」という項目では、**児童アンケートが90%**で目標を上回った。
- 児童アンケートで「自分の命も、人の命も大切にしている。（自他の生命尊重）」が **97%**で目標を上回った。
- 児童アンケートや経年調査の結果、概ね目標の数値を上回った。
「いじめ」「暴力行為」「不登校」などについては、今後も継続して指導を行う。
- 自尊感情や自他の生命尊重について、学校全体で、継続的に指導を行う。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 学力経年調査について
 - ・全学年・全教科で平均正答率が大阪市平均を上回ったが、標準化得点については、全学年が前年度より向上するには至らず、**目標を達成できなかった**。
 - ・正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は全学年で前年度より増加し、**目標を達成できなかった**。
 - ・正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合が増加したのは、1学年に留まり、全学年が前年度より増加することはできず、**目標を達成できなかった**。
 - ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は **75%**で前年度と同等だった。
 - ・令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査での20メートルシャトルランの平均値は男子で3.12ポイント、女子で4.85ポイント向上し、**目標を上回った**。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「宿題以外に家で学校の勉強をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえば、している）」と答える児童の割合は **76.6%**で目標を下回った。
- 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は **81.7%**で目標を上回った。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における20メートルシャトルランについての数値は男女ともに**昨年度より2ポイント向上させることができた**。
- 年度末の児童アンケートにおいて「朝食を毎日食べていますか」の項目について「毎日食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合は **94%**で目標を上回った。
- 年度末の児童アンケートにおける「給食を残さず食べていますか」の項目について、「残さず食べている（ほとんど食べている）」と答えた児童の割合は **95%**で目標を上回った。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を86%以上にする。 ○ 年度末の児童アンケートにおける「自分の命も、人の命も大切にしていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を91%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を86%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>「いじめについて考える日」を設定し、児童の実態に応じた取り組みを行い、「いじめとは何か」について理解を深め、一人一人を大切にした学級経営を行う。また、学校全体で組織的に、いじめのない学校づくりを行う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える日」を設定し、「いじめとは何か」について理解を深めるために、児童の実態に応じた取り組みを行う。 ・いじめアンケートを実施し、実態を把握する。認知した事案については迅速かつ組織的に取り組みを進める。 	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>生活指導上のきまり、規則について全教職員で共通理解し、全教職員が一貫した指導を行うことによって、安全で安心して過ごすことができる学校づくりを行う。</p>	B

指標 <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートを年間2回実施し、児童の意識を高めさせると共に、児童の実態を把握する。 ・廊下・階段の歩き方（右側通行で歩く）の指導を徹底する。 	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生活指導研修会を行うことによって全教職員で児童理解を深め、課題を抱える児童に対して、課題の解決に向けて組織的に取り組みを行う。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議後、生活指導研修会を行い（月1回程度）、児童の抱える課題について共通理解を深め、組織的に指導にあたる。 	
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 道徳の時間に、自立心や自律性、自他の生命を尊重する心を養う指導を行う。道徳ノートを活用し、道徳科における児童の道徳性の成長の様子や学習状況を把握する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・各学期に1回以上、重点目標（自立心・自律心・自他の生命尊重）を扱った道徳教育を実施する。 ・年間2回、児童アンケートを実施し児童の実態把握を行う。 	
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 自らの良さに気付き（自尊感情）、一人一人の違い（個性）を認め合える態度の育成や人権感覚を高めるため、人権教育の年間計画を作成し、それに基づき人権教育を実践する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容に応じ、ゲストティーチャーによる人権教育を実施する。 ・年間2回、児童アンケートを実施し児童の実態把握を行う。 ・年度末に1回、各学年の取り組みをまとめ、実践交流を行う。 	
取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】 たてわり班活動や異学年での活動を通して、より良い集団作りに努めると共に、本物の文化にふれあう体験活動・人や文化とふれあう活動・音楽や器楽合奏に親しむ活動を計画・実施する。	C
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回、たてわり班による児童集会を実施する。 ・ウォークラリー等のたてわり班による学校行事を年間3回以上実施する。 ・異学年での交流を模索し、年間1回以上行う。 ・音楽鑑賞会などを年間1回実施し、本物の文化に触れる豊かな体験活動を行う。 ・地域と連携し、人や文化と触れ合うことのできる活動を1回以上実施する。 ・各学年学期に1回以上、音楽・器楽合奏に親しむ機会を設ける。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標について】 <ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートなどで認知したいじめについては、各担任・学年などで迅速に取り組んだ。 ○ 小学校学力経年調査における、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童が、全体で93%であった。（1年86% 2年94% 3年94% 4年90% 5年92% 6年98%） ○ 暴力行為を複数回行う加害児童数は、0件であった。 ○ 前年度と比較し、新たに不登校になる児童の割合は、減少した。 （昨年度 5名 本年度 3名 増加数÷児童数…$1 \div 691 = 0.144 \dots$） ○ 年度末の児童アンケートでは、それぞれの項目で肯定的回答の割合は、以下の結果であった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分にはよいところがある。（自尊感情）」が児童アンケートでは、90%と目標を上回った。 ・ 「自分の命も、人の命も大切にしている（自他の生命尊重）」が97%と目標を上回った。 	

- ・ 「学校に行くのは楽しい」が児童アンケートでは90%と目標を上回った。

【取組内容①】

- 「いじめについて考える日」を設定し、校長による講話や児童の実態に応じた形でいじめについての理解を深める取り組みを進めることができた。
- 学期に一回、いじめアンケートを実施し実態把握をするとともに、認知した事案については、事実確認・話し合いなどを行い、迅速に取り組むことが出来た。

【取組内容②】

- 今年度は児童アンケートを10月と12月の2回実施した。その結果、「学校や学級のルールを守っている」の項目で、「そう思う・だいたいそう思う」と答えた児童の割合が2回とも93%だった。2度目のアンケートでは「あまり思わない」が1パーセント「そう思わない」より向上した。
- 児童会を中心に「ノーダッシュ運動」や「まったにしっこ にっこにこ」という本校独自の啓発ソングで啓発活動を実施することによって、児童の意識は高まってきた。

【取組内容③】

- 職員会議後に、生活指導研修会を行い、課題を抱える児童について、教職員全体で共通理解することができた。

【取組内容④】

- 計画通り、年間2回児童アンケートを行い、児童の実態把握に努めた。
- 道徳の時間に、重点目標を扱った道徳教育を実施した。また、学校生活全体を通して、重点目標（自立心・自律心・自他の生命尊重）を養えるような指導をした。
- 道徳ノートを活用し、児童の実態を把握した。また、児童の実態に応じて、道徳ノートの下段を活用し、自身の生活に生かせるような工夫をした。

【取組内容⑤】

- 計画通り、年間2回児童アンケートを行い、児童の実態把握に努めた。
- 国際理解、手話学習、盲導犬学習、発達障がいについて、LGBTについて、平和学習と児童の実態に応じてゲストティーチャーによる人権教育を行い、ちがいを認め、互いを大切に思うことに気づくような学習に取り組むことができた。
- 年度末に、各学年の取り組みをまとめ、校内で実践交流した。

【取組内容⑥】

- コロナ禍ということから、多くの活動が制限され、できないことの多い結果となった。
- 6年生と1年生による読み聞かせ会、6年生と各学年で行う祝う会を工夫して行い、異学年交流できた。
 - 各学年学期に1回以上、感染予防対策を行ったうえで、音楽や器楽合奏に親しむ機会を設けた。
 - 計画していた音楽鑑賞会は中止となった。しかし、各学年、土曜授業で音楽専科による歌唱指導を行い、音楽に親しむ機会を設けた。
 - 9月中旬より、たてわり班活動を少しずつ工夫して始めたが、週に1回実施することはできなかった。
 - 今年度は、たてわり班による学校行事はウォークラリーの1回のみとなった。
 - 地域と連携した活動を行うことは難しかった。

次年度への改善点

【年度目標について】

- いじめ・学校のきまり・暴力行為・不登校については、目標を達成することができたが、休みがちの児童や遅れて登校することの多い児童もいる。今後は、いじめ・学校のきまり・暴力行為については引き続き根気強い指導が必要。不登校・不登校気味の児童、保護者に対する組織的なアプローチの仕方を構築し、サポートに当たる必要がある。

【取組内容①】

- 「いじめ」についての理解を深める取り組みを、全学年で行った。その結果、「いじめ」についての理解は深めることはできたが、日々の生活の中では相手のことを考えない言動も見られる。理解したことを行動にうつすことができるよう、継続した指導が必要。

【取組内容②】

- 全教職員による根気強い指導や、児童会による「ノーダッシュ運動」、また、「まったにしっこ にっこにこ」の啓発ソングにより、廊下・階段の歩行の仕方についての意識は高まってきている。しかし、「ノーダッシュ運動」以外の日や教職員の目が行き届いていない時など、廊下・階段を走っている児童も多い。今後も全教職員で継続して指導する。廊下・階段の歩行を徹底させるために、児童会を中心に啓発活動を継続して行うとともに、校内の環境整備についても検討する。

【取組内容③】

- 職員会議後に生活指導研修会を行うことで、課題を抱える児童についての共通理解を深めることができたが、それに対する今後の指導の仕方などを話し合うまでに至っていない。引き続き、不登校児童に対する組織的なアプローチの仕方を構築する必要がある。相談を受けている教員が孤立しないように、また、一人で抱え込まないように、問題に気づいた教員が、問題を全体に投げかけられる雰囲気を作り、必要であれば、事例検討会やケース会議なども定例化していく。

【取組内容④】

- 道徳の授業を通して理解したことを実生活でも生かせるよう、継続的に指導が必要である。

【取組内容⑤】

- 継続的に指導を行う。
- ゲストティーチャーによる人権教育を系統立てて行うことを考える。

【取組内容⑥】

- 来年度もコロナ禍での活動になると予想されるため、行事やたてわり班活動等を工夫して行えるように考えていく必要がある。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較しいずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○ 前年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において課題であった、運動を持続させる力の平均の記録を前年度より2ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の児童アンケートにおける「宿題以外に家で学校の勉強をしていますか」の項目について「している（どちらかといえば、している）」と答える児童の割合を81%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を76%以上にする。 ○ 20メートルシャトルランを2学期末までに実施し、平均記録を前年度より2ポイント向上させる。 ○ 年度末の児童アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「毎日食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合を93%以上にする。 ○ 年度末の児童アンケートにおける「給食を残さず食べていますか」の項目について、「残さず食べている（ほとんど食べている）」と答える児童の割合を91%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>各種サポーターの支援や、習熟度別学習の実施により、言語力や論理的思考能力の育成を図る。</p> <p>パソコンやタブレットなどのICT機器の活用を推進する。</p> <p>地域の図書館を利用したり、お話の会を実施したりすることで読書習慣の定着を図る。</p> <p>学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を充実させる。</p>	B

指標 <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回児童アンケートを実施し、各種サポーター・習熟度別学習の効果を検証する。 ・年間計画をもとに、タブレットを使用した学習を実施する。 ・週1回(火曜日の朝の時間)読書タイムを実施したり、月1回、地域の図書館を利用したりする。 ・1日1回以上、学習の中で話し合う活動を取り入れた学習を行う。 	
取組内容②【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 全学年で自主学習ノートの設定を行い、自主学習習慣の確立を図る。ただし、1年生は3学期以降の実施とする。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートの一人あたりの最低提出回数目標を上回る。 (1年：5回 2年：15回 3年～6年：30回) ・自主学習の手引き「家庭学習の進め方」の見直しを行う。 	
取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 全教職員が低・中・高学年部に所属し、研究主題に沿った授業研究を行う。アンケート結果などを踏まえた校内研修会を、計画を立てて実施する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で研究主題に沿った授業研究を年間3回行う。 ・計画したアンケート結果に沿った校内研修を全3回実施する。 (①外国語②ICT機器③音楽) 	
取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育学習の指導を通して、持久力を高める。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・頑張りカードを作成し、体力の向上を図る。 	
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健安全計画に基づき、「ほけんだより」を活用しながら、基本的な生活習慣について指導する。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ほけんだよりを月1回発行し、学級での指導に活用する。 	
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 各学年の食に関する指導の年間指導計画に沿って、各教科・領域と関連した指導を実施するとともに、家庭と連携した食育を推進する。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導を年に3回全ての学級で実施し、指導後にはお便り等で家庭に知らせ、保護者との連携を図る。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標について】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末児童アンケートにおける「宿題以外に家で学校の勉強をしていますか」の項目について「そう思う(だいたいそう思う)」と答えた児童の割合は76.6%であった。(昨年度83%) ○ 小学校児童アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と答えた児童の割合は、84.6%であった。(昨年度86%) ○ 4, 5, 6年生で、20メートルシャトルランを実施し、5年生の全国体力・運動能力調査では男女ともに前年度の結果より2ポイント以上向上した。 ○ 年度末の児童アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか。」の項目について、「毎日食べている。(ほとんど食べている)」と答えた児童の割合は94%で目標に到達している。 ○ 年度末の児童アンケートにおける「給食を残さず食べていますか。」の項目について、「残さず食べている。(ほとんど食べている)」と答えた児童の割合は95%で目標に到達している。 	

【取組内容①】

- 年2回の児童アンケートの実施や各種サポーターの支援・習熟度別学習の実施によって、児童の実態を把握し、学力の向上を図るとともにきめ細かな指導を行うことができた。
- タブレットを中心に、ICTの使用頻度は昨年度より高くなり、総合的な学習の時間以外の国語科等の時間にも活用することができた。
- 新型コロナウイルスの影響で鶴見図書館の利用は減ったが、週1回の図書的时间・読書タイム、昼休みの図書館開放等の学校図書館の利用やお話の会の実施によって、読書習慣の定着を図ることができた。
- 新型コロナウイルスの感染予防のため、学習中の話し合い活動の機会は減ってしまったが、場の工夫を凝らしながら自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。

【取組内容②】

- 全学年で自主学習ノートを設定し、計画的に自主学習ノートを提出することができた。どの学年においても、ほとんどの児童が最低提出回数を上回ることができた。また、自主学習の手引きの見直しを行った。

【取組内容③】

- 年度当初の計画に沿って、年間3回の授業研究を行うことができた。また、すべての学年において、研究テーマに沿った授業に取り組むことができた。また、新型コロナウイルスの影響で実施できなくなった校内研修もあったが、ICTを中心に3回の校内研修を実施することができた。

【取組内容④】

- 鉄棒、なわとび、持久走の頑張りカードを作成し活用することで、体育の時間だけでなく休み時間にも取り組む児童が増え、体力の向上を図ることができた。
- 体育の時間に、サーキット運動や持久走を取り入れるなど指導法を工夫し、児童の運動量を確保し、体力の向上を図った。

【取組内容⑤】

- 保健だよりを月1回発行し、各学級で各学年の発達段階に応じて、病気やけがの予防や基本的な生活習慣の指導を行った。児童の興味をひくような内容やイラストを取り入れるなどの工夫により、児童の関心を高めることができた。
- 発育測定時の養護教諭による保健指導や保健室前の掲示により、健康に関する意識が高まった。特にこまめな手洗い、消毒の習慣は、日々の声かけもあり、十分に身につけている。

【取組内容⑥】

- 日々の給食指導とともに、栄養教諭による食に関する指導を年に3回全学級で指導した。指導後、活用したワークシートとお便りを持ち帰らせることで、保護者にも学習した内容を知らせ、家庭との連携を図ることができた。
- 給食室前の掲示や給食委員会のビデオは、児童の興味関心をひき、食に関する意識をさらに高めることができた。

次年度への改善点**【取組内容①】**

- 各種サポーターとの支援方法について、その都度連携を取り合い効果的に支援していく必要がある。
- ネット環境は改善されたが、タブレットの台数が不足していたり、タブレットとプリンターが接続されていない等の不便な点があったりする。今後、一人一台パソコンが整備されると、台数の問題は解消すると考えられる。
- 鶴見図書館の利用ができない時のためにも、学級文庫の充実と置いている本の入れ替えが必要である。
- コロナ禍において、話し合い活動以外での考えを深めたり交流したりする方法を進めていく。

【取組内容②】

- 自主学習ノートの提出回数と、児童の自主学習への意識が比例していない。自主学習への働きかけ方を見直しをするとともに、自主学習の手引きを活用して内容の充実を図って

いく。

【取組内容③】

- 研究主題に沿った授業研究以外にも、教職員による授業の活発な交流が必要である。
- 研究教科を中心に、教職員の資質向上のための研修を充実していく。

【取組内容④】

- 頑張りカードの改善と効果的な活用の仕方を工夫する。
- 頑張りカードを共有し、系統立てて指導する。
- 体育用具を充実させる。

【取組内容⑤】

- 継続的に指導する。

【取組内容⑥】

- 今後も継続的に家庭と連携して食育を推進する。